

宅老所 みんなのあもり 平成25年2号

ひとりの人を大切にするまごころ介護
ひとりの人の可能性を信じるまごころ介護



堰免さんご夫妻、みんなのあもり隣の差手公園にて

〒380-0941 長野県長野市安茂里 1861
TEL/FAX 026-226-0903

グループもみじ

検索

みんなのあもりでは様々なお年寄りが日常を過ごしています。何気ない日常の中でも多彩な物語が生まれてきました。そんなみんなのあもりの日常を紹介したいと思います。



ちゑ子さんはあもりきっての働き者。洗濯物をたたんで下さったり、食器を洗って下さったりと日々活躍されています。この日は夕食を手際良く作って下さいました。



またある日は梅漬けを仕込むための梅割りを手伝って下さいました。梅割りは初めてとのことでしたが、次第にコツをつかんでテキパキと作業されていました。



近所の保育園の園児達がお隣の差手公園に遊びにきました。元気に駆け回る子供達の様子を見てお年寄り達も顔をほころばせていました。



とんぼハウスは誰もが気軽に立ち寄って自由に使える町の縁側として解放されています。ある時はボランティアの方々やお年寄りを交えて柏餅作りが行われ、またある時は七夕会が催されるなど、様々なイベントに活用されています。

偲ぶ会

みんなのあもりではお盆に偲ぶ会を開いています。以前にみんなのあもりを利用されていたお年寄りのご家族や、現在みんなのあもりを利用されているお年寄りのご家族、みんなのあもりの職員が集まり、故人との思い出を語り合い、偲んでいます。

今年は8月15日に出席者9名で行いました。みんなのあもりがスタートした2000年当時のお話も聞かせていただき、スタッフにとっても勉強になりました。

当日のお話を紹介させていただきます。

利用者第一号飯島丁美さんの奥様、飯島もとめさんのお話。

「夫は色々な所を試してみても駄目だったが、田中さんは話に飛び込んでくれて、いつの間にか夫と良い関係を築き、夫はみんなのあもりに通うようになっていった。夫はみんなのあもりのことを『あの家は良い家だ』と言っていた。

夫が亡くなった時は電話をすると田中さんがすぐ来てくれて、自分の車に夫を乗せて病院から自宅まで連れて帰ってくれた。私はその後しばらくは家で臥せっていたが、ある日突然田中さんが訪ねてきて声をかけてもらい、みんなのあもりへボランティアとして顔を出すようになった。

今は息子がみんなのあもりでお世話になっている。職員の方がそれぞれの特徴で十人十色の関わり方をして下さる。息子はいつもみんなのあもりに行きたがっていて、止めるのが大変。

これからも頼れるだけ頼らせてもらおうと思っています」

内山けさみさんの息子さん、内山天文さんのお話。

「大岡村で一人暮らしをしていた母だが、一人暮らしが難しくなってきたので長野市で一緒に住むようになった。みんなのあもりに通うようになり、『お勤めに行く』『行かなきゃならないから』と言って嫌がらなかった。

田中代表

「週末になると息子さんとけさみさんが一緒に大岡に帰って畑仕事をしていたことは本人の安定に繋がったと思う。本人にはそれまでの暮らしがあり、少しでもそれまでの生活に身を置くこと、元々の暮らしに繋がることで安定する」